

第1回 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 議事概要

1. 日時：令和4年2月24日（木）10：00～12：00
2. 開催方式：WEB 会議方式
3. 出席者：伊藤委員、山口委員、関根委員、荻原委員、田中委員、志村委員、柳川委員、久野委員、清水委員

4. 議事（概要）

【座長の選任】

- 当該検討会の座長として伊藤委員が全委員一致のもと承認された。

【説明】

- 大型車の車輪脱落発生状況と傾向分析について、事務局より資料2-1を用いて説明。
- ホイールの締め付け方式である JIS、ISO 方式において、共に正しく締め付けられていれば緩まないことや、ホイール・ナットの適切な清掃やねじ部、摺動面へのオイル塗布によって軸力が確保される旨の実証実験結果について、（一社）日本自動車工業会より資料2-2を用いて説明。
- 各団体の車輪脱落防止対策について、国土交通省（資料3-1）、（一社）日本自動車工業会（資料3-2-1）、（公社）全日本トラック協会、（一社）日本自動車整備振興会連合会、全国タイヤ商工協同組合連合会及び（一社）日本自動車タイヤ協会（資料3-2-2）より説明。
- 今後、大型車の車輪脱落事故に係る市場実態調査（ヒアリングやアンケート）、実証実験、海外における車輪脱落事故の発生状況を調査していく旨、スケジュール（案）とともに事務局より資料4-1、4-2を用いて説明。今後、資料の記載内容に沿って、運営していくことになった。

【委員からの主な意見】

- 適切なタイヤ脱着作業、保守管理の徹底の啓発については、事業用運送事業者だけでなく自家用車を用いる事業者に対しても行っていただきたい。
- タイヤ脱着作業等（タイヤ専門店、自動車整備事業者、運送事業者）に対するタイヤ脱着作業等に係る調査を実施されるとのことであるが、タイヤ脱着作業にあたって作業に必要などのような情報が行き届いていないか明らかにする調査としていただきたい。
- 左後輪からの車輪の脱落が多い理由について推定要因は記載されているが、実証実験などにより明らかにしていただきたい。
- 塗布する潤滑剤の種類によって、ホイール・ナットの締め付け力が変わることを伺っており、本検討会の調査でも明らかにしていただきたい。

- 海外調査における車輪脱落事故の実態調査を行われるとのことであるが、右側通行の国の事故の発生状況についても調査いただきたい。
- 2月18日に国土交通省よりプレスリリースされた「大型車のタイヤ脱着時のホイール・ナットの適切な点検・整備」について、タイヤ専門店等がお客様に対して、ホイール・ナットの交換を促す際に活用させていただきたい。
- バスの車輪脱落事故の発生件数は、昨年度は0件であるなど少ない実態があるが、引き続きバス運送事業者に対して車輪脱落防止対策の啓発をさせていただく。